平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	建築計画2 (Architectural Planning 2)	授業コード	L040251
担当教員名	島岡　成治	科目ナンバリングコード	L20402
配当学年	2	開講期	後期
必修・選択区分	必修 全コース(2016年度以降) コース選択必修 建築コース(2015年度) 選択 インテリアデザインコース(2015年度) 環境・地域コース(2015年度)	単位数	2
履修上の注意または履修条件	特にありません。		
受講心得	建築の設計を行うための不可欠の知識を講義します。特に美術館及び学校についての講義は、それぞれ設計製図3の第2課題、設計製図4の第1課題に先行して行うので、講義内容を反映させて設計演習に取り組む意識が大切です。また、実際の建築空間で学んだ内容を確認することが大切です。すぐれた建築作品をできるだけ見学することを勧めます。		
教科書	建築計画2 (鹿島出版会)岡田光正他著		
参考文献及び指定図書	コンパクト建築設計資料集成(丸善株式会社)　日本建築学会編 その他適宜指示します。		
関連科目	建築計画1、住居論、設計製図2・3・4		

授業の目的	現代社会における建築の機能は様々に多様化し、いくつかのビルディングタイプを形成しています。このようなビルディングタイプのうち、事務所と博物館と学校を取り上げ、これらビルディングタイプの建築計画における基礎知識を習得し、企画・設計・維持管理における建築的技術を身につけるための基礎能力を養うことが第1の目的ですが、さらに、これからの社会にふさわしいそのあり方を思考し、提案する能力を身につけることが望まれます。
授業の概要	事務所建築、博物館建築、学校建築について、主として近代の歴史のなかで、このような建築物が形成されてきた過程を踏まえた上で、現代におけるその機能分析と空間構成の技術的方法、企画・設計・維持管理等における課題や問題点等について講義します。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 ： 講義の目的と範囲ー建築計画における機能について 建築計画が各論として取り上げる様々なビルディングタイプは、歴史の中で形成され、求められる機能的性格は、現在も様々な社会的背景の中で、変化にさらされています。このことを踏まえた建築計画に対する基本的考え方とその講義の範囲を説明します。また、近代以降の西洋の都心部で形成、発展してきた事務所建築の歴史を概説します。	建築計画を学ぶ上での歴史研究の意義についてレポートにまとめる(1時間)
第 2 週 ： 事務所建築について 日本の事務所建築の歴史を概説し、それに伴う建築計画上の課題の変遷などを説明します。また、現在の事務所建築の種類と現代の課題、今後の方向性について、具体例を示しながら解説します。	事務所建築の歴史及び現代の問題点についての課題解答(1時間)
第 3 週 ： 事務所建築の全体計画 都市における公共性を配慮した企画とコンセプト、事務室空間のフレキシビリティ、基準階とコアシステムによる平面計画、構造計画、高層化の問題点など、事務所建築の全体計画について、できるだけ具体例を示しながら解説します。	事務所建築の全体計画につての課題解答(1時間)
第 4 週 ： 事務室空間の部分計画 オフィスレイアウトやデスクレイアウトを含む事務室空間の平面計画や断面計画、アプローチやエントランス、階段やエレベータなどの交通計画、設備計画など、個々の空間や設備について、図や写真を示しながら解説します。	事務所建築の部分計画につての課題解答(1時間)

第 5 週 ： 事務所建築のまとめと復習演習 第1回～第4回の授業内容について補足説明とまとめを行います。また、この範囲についての復習テストを行います。	事務所建築の計画について課題演習（1時間）
第 6 週 ： 博物館建築の歴史と種類 博物館建築の歴史をふり返りながら、特に近代以降の博物館とはどのようなものであったかを考えます。とりわけ、美術館は、芸術のあり方そのもと結びついて変化してきたことを説明し、今後の美術館の可能性について考えます。	博物館建築の歴史と種類についての課題解答（1時間）
第 7 週 ： 博物館建築の全体計画 どのような博物館建築を運営・企画するかによって、その建築空間が異なることを、いくつかのタイプの実例を挙げながら解説します。また、配置計画、規模計画、動線計画や機能上の要求による空間組織などについて説明します。	博物館建築の全体計画についての課題解答（1時間）
第 8 週 ： 博物館建築の各部計画1 展示空間の計画の要点について、展示の種類や方法、巡回方式、また規模や採光や照明計画について、できるだけ実例を挙げながら説明します。	博物館建築の展示空間の計画についての課題解答（1時間）
第 9 週 ： 博物館建築の各部計画2 講堂や図書館など研究部門や教育普及部門について、計画の要点をできるだけ実例を挙げながら説明します。さらに収蔵空間について計画の要点を説明します。	博物館建築の展示空間以外の部門の計画についての課題解答（1時間）
第10週： 博物館建築のまとめと復習演習 第6回～第9回の授業内容について補足説明とまとめを行います。また、この範囲について復習テストを行います。	博物館建築についての課題演習（1時間）
第11週： 学校の運営方式と現代の学校例 現在の日本の学校の種類について説明した後、主として、小・中・高校におけるいくつかの基本的な運営方式と、近年採用されることが多くなったオープンシステムによる運営方式について、その内容と長所・短所を説明し、さらに、現代のすぐれた具体例を平面図や写真によって紹介します。	日本の小・中・高の学校の運営システム課題と建築計画について課題解答（1時間）
第12週： 学校建築の全体計画－配置計画と全体平面計画 学校区の計画や規模計画、さらに、校舎や運動場の配置計画を、周辺の町並みとの関係、アプローチや校舎と運動場の相互関係、運営方式との関係、さらに学校全体のブロックプランなど学校の全体計画について、いくつかの例を挙げながら説明します。	学校建築の全体計画についての課題解答（1時間）
第13週： 学校建築の各部計画1 教室群のユニットプランを具体的な図といくつかの実例を示しながら説明します。また、一般的なクラスルームの他、オープンシステムにおけるオープンスペースや教材庫、教師室など周辺スペースの構成について説明します。	学校建築のユニットプランやクラスルーム等についての課題解答（1時間）
第14週： 学校建築の各部計画2 各特別教室における必要スペースと必要設備、また、交通空間やサニタリー空間の他、給食室や食堂、講堂などの生活関連施設、さらに体育館および管理諸室などについて、具体的な図といくつかの実例を示しながら説明します。	学校建築のクラスルーム周辺以外の各部計画についての課題解答（1時間）
第15週： 学校建築のまとめ 第11回～第14回の授業内容について補足説明とまとめを行います。また、この範囲について復習テストを行います。	学校建築についての課題演習（1時間）
第16週： 期末試験 試験は60分、持ち込み不可で行います。	

授業の運営方法	（1）授業の形式	「講義形式」
	（2）複数担当の場合の方式	
	（3）アクティブ・ラーニング	
地域志向科目	該当しない	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	①各種建築物についての建築計画的な見方に関心をもち、そのような見方を習得するよう努力することができる。

【知識・理解】	②事務所建築、博物館建築、学校建築について、建築計画上の基本的知識を身につけている。 ③他の建築物についても、その建築計画上の基本的知識を習得する方法を身につけている。
【技能・表現・コミュニケーション】	④事務所建築、博物館建築、学校建築について、実物や図面を見て、その建築の建築計画的特徴を説明することができる。
【思考・判断・創造】	⑤さまざまな各種建築物のこれからの在り方を考える基礎力を身につけている。

○成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等（テスト）	レポート・作品等（提出物）	発表・その他（無形成果）	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			15点	
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。	45点	20点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	5点		5点	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	5点	5点		

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等（提出物）	提出することが最低条件です。その内容については、単位を修得するために達成すべき到達目標に対し、以下の達成水準を目安とします。 S：よく満たしている。 A：ほぼ満たしている。 B：一応満たしている。 C：一部分満たしている。
発表・その他（無形成果）	毎回の講義に出席することが最低条件です。また、3回あるまとめの講義の時や通常の講義において、積極的に優れた内容を発言した者は、記録して加点することがあります。